

令和5年度

自己評価報告書

令和6年2月

阿南市立富岡小学校

1 評価内容

- (1) 児童アンケート
- (2) 保護者アンケート
- (3) 教職員アンケート

2 アンケート回答者

- (1) 児童 (440名)
- (2) 保護者 (411名)
- (3) 教職員 (30名)

3 実施時期 令和6年1月末～2月中旬

《児童学校生活アンケート結果の考察》

1 ポイントが高かったもの（Aそう思う・Bだいたいそう思うの合計が90%以上の項目）

- ①学校生活は楽しい。
- ②友だちに優しくし、なかよくしている。
- ④自分のことは、自分から進んでしている。
- ⑧宿題や自主学習をきちんとするようにしているか。
- ⑨チャイムの合図を守り、次の活動に素早く取りかかっている。
- ⑩時間いっぱい、一生懸命掃除をしている。
- ⑫朝ごはんをきちんと食べて、学校にきている。
- ⑭地震や津波の避難の仕方が分かり行動できる。
- ⑮先生は勉強を分かるように工夫して教えてくれる。
- ⑯先生はがんばったことをほめてくれる。
- ⑰先生はしてはいけないことをしたとき、きちんとしかってくれ心配してくれる。
- ⑱先生は学級でいじめやトラブルがあったとき解決してくれる。
- ⑲阿南市（富岡町）という町がすきだ。

2 ポイントが低かったもの（Cあまり思わない・Dそう思わないの合計が15%以上の項目）

- ③先生・友達・地域の人に自分から進んであいさつしている。
- ⑤今の学年で習った計算ができ、漢字もよく覚えている。
- ⑦授業で勉強したことを生活の中で使おうとしたり、考えたりしようとしている。
- ⑬体調が悪いとき以外は、歩いて登校している。

3 総括

全体的に19項目中13項目が90%以上、6項目が80%以上と高い評価である。

上記にもある、ポイントが低かったものについては、昨年度より1項目減り4点となり、それらについては改善すべきことと捉えている。特に、「⑬体調が悪いとき以外は、歩いて登校している。」は、Dそう思わないの割合が最も高く、歩いて登校するということを、今後も児童に意識づけていくことが大切である。児童の健康面の課題からも、根気強く指導していきたい。また、この項目については、教職員の振り返りの中にも課題としてあげられている。家庭の事情や安全面等の課題があって難しい側面があるが、保護者への呼びかけや児童への指導を継続して行っていく。

「③先生・友達・地域の人に自分から進んであいさつをしている。」については、コロナ禍やインフルエンザ等の感染症を防ぐための指導の積み重ねも影響している。しかし、日常生活の中で、自分からあいさつができていなかったり、声が小さすぎたりという実態がある。コミュニケーションの一つとしても意識づけ、今後も、生活に関連づけながら「あいさつ」の大切さや意義（価値）が実感できるような指導をしていきたい。

また、「②友だちに優しくし、なかよくしている。」「⑩時間いっぱい、一生懸命掃除をしている。」「⑮先生は勉強を分かるように工夫して教えてくれる。」「⑯先生はしてはいけないことをしたとき、きちんとしかってくれ心配してくれる。」「⑰先生は学級でいじめやトラブルがあったとき解決してくれる。」では、肯定的な回答が95%を超えている。このように、自分も人もそして、学習環境も大切にする教育活動を行っていくことは、互いを尊重し合う児童を育むこととなり、学級や学校が安心・安全な自分の居場所に繋がっていくと考察する。

今後は、評価ポイントが低かった4項目が改善できるよう、富小スローガン「早寝・早起き・朝ごはん・歩いて登校・元気な挨拶」の指導を積極的に行い、心身ともに健康な児童の育成に努めたい。そして、ICT器機を活用した効果的な学習を追求し、学力の向上を図っていきたい。

《保護者アンケート結果の考察》

【学校教育】について

すべての項目で、Aよくできている・Bおおむねできているという肯定的な回答が85%を越えていることから、本校の教育活動について保護者から理解を得ているものと考え。

(3) 学校は、命を大切に、健康な体づくりのための教育活動に取り組んでいる。・・・96.3%

○学校が命を大切に教育活動に取り組んでいることを保護者も理解しており、自分も他人も大切に学校の風土を好意的に受けとめてくれているからだと考える。

(9) 先生は、子どものがんばりを認め、よさを伸ばそうとしている。・・・93.6%

○児童のよさの伸長や自尊感情の向上に努めようと、学校全体で行ったポジティブ支援の取組が、児童の姿を通して保護者に伝わった結果だと考える。この取組は、教職員から児童へ、そして児童間へと広がり、認め合う仲間づくりへとつながっていった。

(10) 先生は、欠席したときや何かあったときは必ず連絡している。・・・95.9%

○日々担任等が保護者との連携を大切にしている成果の表れであると考え。

(7) 学校は、南海・東南海地震に備えて積極的に防災教育に取り組んでいる。・・・85.6%

○児童の防災意識は高いが、避難訓練が十分に実施できず不安を感じている児童がいる。南海トラフ大地震・津波への関心が高まる中、今後はより実効性があり、家庭・地域と連携した防災教育を推進していく必要がある。

【家庭教育】について

昨年度と比べて、肯定的な回答のポイントが少し上がっている。

(14) 学校のきまりや交通ルールなどを守らせるようにしている。・・・99%

○日頃から感じている保護者の規範意識の高さが表れた結果だと考える。家庭教育においてもその姿勢が一貫されていることがうかがえる。

(15) 朝ごはんを必ず食べさせている。・・・97.8%

○保護者の食育への理解の高さが影響していると考え。

(16) ゲームの時間を決めている。・・・62.6%

(19) 子どもに決まったお手伝いをさせ、働くことを大切にしている。・・・69.8%

○ポイントは上がってきているが、目標値の80%を下回っている。これらのことは家庭教育の問題ではあるが、児童の教育は、学校・家庭・地域が緊密に連携をとりながら一致協力して取り組んでいく必要がある。

【PTA活動】について

昨年度と比べて、肯定的な回答のポイントが上がっているが、他の項目と比べてみるとかなり低い。

(21) 研修会や奉仕作業等のPTA活動に進んで参加している。・・・45.7%

(22) 各種PTAの会や事業の内容について理解し、満足している。・・・68.3%

○大規模校がゆえに「だれかがやってくれるだろう」という他人任せの意識が働いているのかもしれない。また、本年度はアフターコロナで研修会及びPTA活動が増えたが、久しぶりの本格的な活動でPTAとの連携が十分に図れなかったのも影響しているのだろう。しかし、PTA会長をはじめ他の役員や保護者の中には、児童のためにと、率先してPTA活動に参加してくださる熱心で協力的な方が多い。何かできることはあると可能性を見出し、子どものより良い成長を助長できるような活動を創り出していく保護者の姿がある。本校はPTA戸数約350戸の大所帯であり、全保護者の協力を得るといった難しい側面はあるが、それだけの人数が児童のために力を合わせると、計り知れない力となる。今後、発信の仕方などに工夫を加え、できるだけ多くの方がPTA活動に意義を感じて、主体的に取り組んでいけるよう努めていく必要がある。

《教職員教育活動の振り返り結果の考察》

1 ポイントの高かったもの(よくできている・おおむねできているの合計が80%以上)

(1)「確かな学力」の育成

- ①学力の状況把握と学力向上に向けた具体的な手立て
- ②家庭学習の習慣を身につけさせるの啓発や支援 ③ICT機能等の活用
- ④発達障害を含めた児童各個人の個人差に対応した指導 ⑤情報教育による指導環境の向上

(2)人権教育の推進

- ①学年・学級の仲間づくり ②自尊感情を育てるための具体的な手立て
- ③人権教育の年間指導計画に基づいた実効性のある人権教育活動の推進
- ④いじめや仲間はずしを許さない指導 ⑤人権教育推進のための力

(3)特別支援教育の推進

- ①発達障がいに対する支援 ②特別支援教育コーディネーターや支援学級担任との連携

(4)生徒指導の充実

- ①めざす児童の姿の共通理解と具現化 ②進んで行動できる児童の育成
- ④時間を守り、授業に集中する児童の育成 ⑤学校のルールを守るための指導

(5)安全・防災教育の充実

- ①東南海地震を想定した、積極的な防災学習 ②命を守るための安全点検・安全防災対策

(7)職員研修の充実

- ①校内研修に意欲的参加 ②人間力を豊かにするための自主的・主体的な研鑽

(8)その他

- ①学年団のチームワークを大切にした教育活動・富小教職員集団としての自覚
- ②担当校務を果たし、よりよい学校づくりに向けた提案や実践
- ③保健指導や食育の推進 ④児童の体力向上に向けた実践
- ⑤教育公務員としての自覚とコンプライアンス意識の醸成
- ⑦富小スローガン「早寝・早起き・朝ごはん・歩いて登校・元気な挨拶」の達成のための指導

2 ポイントが低かったもの(よくできている・おおむねできているの合計が70%以下)

(8)その他

- ⑥業務の効率化の推進と勤務時間の適切な確保

3 学校教育活動全般に関する振り返り(主な意見と考察)

〈成果〉

- ・全体的に見ると、落ち着いた子が増えてきている。
- ・友達のことを考えて行動する優しい子どもが多い。
- ・挨拶や掃除をよくする子が多い。
- ・言葉がけした助言などを好意的に受ける児童が多い。
- ・学習に一生懸命に取り組む児童がたくさんいる。苦手なことも諦めずに頑張っている姿が見られる。
- ・休み時間はよく体を動かして、給食もしっかりと食べて、素直な受け答えができる純朴な姿がみられた。
- ・子どもたちが常に友達を思いやり、大切に関わる姿を学級全体で共有し、よいところを認めたりまねしたりしながら成長している。
- ・施設・設備がとても充実している。教材が破損したり、足りなかったりしても、相談すれば整えてくださるので、とてもありがたい。
- ・ICTの環境が整ってきたことやトイレの工事が完了したことで、学習や生活がしやすくなった。
- ・急に休むときにも、温かくサポートしていただける環境が大変ありがたく、感謝している。

〈課題〉

- ・自尊感情が低く、自分の意見を表現することが苦手な児童がいる。
- ・意欲的に学校へ来られない児童が数名いる。その児童らの支援を頑張りたい。
- ・進んで挨拶や自主的に考えて行動する児童がもう少し増えたら良い。

- ・歩いて登校が少ない。(車で登下校が多い。)
- ・支援を要する児童への配慮の仕方等に悩むことも多い。個人情報のあるので周知しづらい部分もあると思うが、ケース会議などの一部だけで話し合ったこと、特に気になる子どもへの関わり方や学校としての指導方針を共有してほしい。補教や入り込みで違う学年の児童と関わることもあるので。
- ・児童の安心安全な環境を最優先とした施設設備の維持管理が重要。
- ・適正な業務に向け改善が必要。
- ・行事本番やその練習等に多くの授業時間が割かれ、時数の取り返しが追いつかないこともあったので、学校行事の精選や規模の縮小ができないかと感じた。

4 総括

令和5年度は、振り返り項目を精選し、追加したり変更したりした。令和4年度と比較するとポイントが上がった項目と逆に下がった項目がいくつかある。Aよくできている・Bおおむねできているという肯定的回答の合計が、年度当初に目標値として設定した80%を達成できた項目が31項目中29項目と多い。そのような中でも、Aよくできているのポイントが最も多かったのは、「(2)－④いじめや仲間はずしを決して見逃さず、それらを許さない指導を貫くことができたか」で肯定的な回答は100%であった。また、「(2)－②自尊感情を育てるための具体的な手だてを考え、学級や学年・全校で取り組むことができたか」でも、肯定的な回答が100%であり、本校が大切にしている自分の大切さとともに他の人の大切さを認める人権教育への取り組みを教職員が自覚していることがよくわかる。

「(1)－①児童の学力の状況を把握し、学力向上に向けた具体的な目標や手だてをもって取り組むことができたか。」では、肯定的な回答が96.2%であるが、「(1)－②ICT機器等を活用し、指導方法の工夫改善に努め、授業力の向上に取り組むことができたか」は、肯定的な回答が88.5%、「(1)－⑤情報教育によって、指導環境が向上したと考える」では、肯定的な回答が84.6%となっている。これは、ICT環境が整い、タブレットを使った学習が積極的に行われるようになったが、日々進化していくICT機器による効果的かつ学習方法が豊富であるがため、確実に定着させていく難しさを感じている表れであると考察する。

(3) 個々の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進では、「(3)－①障がいの内容・程度や教育的ニーズに応じた支援策を講ずることができたか。」の項目で肯定的な回答が90%を上回っていた。教職員の児童個々へのきめ細かな支援が、規律を守ったり落ち着いた学校生活を送ったりする規範意識の向上につながっていると考える。

(4) 社会の変化に対応した生徒指導の充実では、1項目を除いたすべての項目で肯定的な回答が80%を上回った。特に、「(4)－④時間を守り、授業に集中する児童を育てることができたか」は96.2%で、例年高いポイントを上げている。これは、本校の生徒指導について、改善ポイントを焦点化して学校全体で指導を進めたことも影響していると考えられる。現時点での児童の姿から見える問題点を洗い出したり、教職員間の認識のズレを補正したりしたことがポイントアップにつながったようである。教職員が同じ軸で指導することを意識したことが生徒指導の充実につながった。今後も継続し、徹底していきたい。一方、「(4)－④正しい言葉遣いや進んで大きな声のあいさつ、礼儀作法を身につけた児童を育てることができたか」では、76.9%となり、昨年度より1.9ポイント上がったが目標値を下回った。これは、コロナ禍やインフルエンザの流行の影響もあるが、感染対策を重視するあまりにあいさつ奨励を積極的に指導できなかったことの積み重ねが要因だと考える。相手に聞こえるような声で自主的にあいさつができるよう、時と場に応じた言葉遣いや礼儀作法を身につけられるよう今後も指導を継続していきたい。

教職員の勤務状況を見てみると、1項目を除いたすべての項目で目標設定の80%を上回っていた。「(8)－①富小教職員としての自覚をもち、学年団等で協力やまとまりを大切にしながら教育活動を進めることができたか」では、肯定的な回答が100%となり、協働体制が確立されていることがうかがえる。一方、「(8)－⑥業務の効率化を進め、勤務時間の確保を適切に行うことができたか。」では、肯定的な回答が昨年度より、0.4ポイント下がり62.1%となった。これは、通常業務の他、アフターコロナで、様々な学校内外の行事のあり方を見直し、新たな歩みを始める準備や運営に時間を費やしたことも影響している。勤務時間調査でも、超勤1か月当たり45時間超えている教職員が約13名いるという課題が現実にある。今後、工夫している働き方を共有したり、業務の見直しをしたりして、超勤時間を減少させ、これまで以上に心身ともに健康で子どもたちと接することができるように努めていきたい。